日本ハンドボール協会

■公認ハンドボール指導員

養成目的 地域スポーツクラブ（スポーツ少年団など）や小・中・高等学校の部活動の指導者、そして今後指導者を目指すものを対象に基礎的な実技指導に当たれる指導者を養成する。

役割 対象者の発育・発達に応じ様々な運動経験を通し、スポーツに必要な身体作りと動き作り、あわせて基礎的なハンドボールの技術・戦術の指導にあたる。

受講条件 受講年度の4月1日現在で満18歳以上の者（免除条件については別途定める）。

カリキュラム 共通科目35ｈ（共通Ⅰ）専門科目40ｈ

受講料 共通科目　21,000円　専門科目　14,700円

登録料(4年間) 10,000円（初回登録時のみプラス3,000円）

更新のための義務研修 資格登録有効期限4年間のうちに、最低1回日本ハンドボール協会が定める研修会または日本体育協会（都道府県体育協会の実施する研修会を含む）が実施する（認める）研修を受けなければならない。

担当委員会 日本ハンドボール協会 指導委員会

区分		カリキュラム		時間数		
				集合	その他	計
1	種目の特性に応じた基礎理論	①	ハンドボールの特性（競技の概要、国内外の動向）	1h	0h	1h
		②	指導者養成の考え方	1h	0h	1h
		③	指導者の役割（理想の指導者像、求められる行動規準）	1h	0h	1h
		④	ハンドボールの歴史（歴史的発展、国際的動向）	2h	0h	2h
		⑤	ハンドボールの科学的理解（バイオメカニクス、生理学）	2h	0h	2h
		⑥	ハンドボールの一貫指導	2h	0h	2h
		⑦	ハンドボールの構造的理解（攻撃・防御局面の理解、攻撃局面に必要な技術と戦術、防御局面に必要な技術と戦術、攻撃・防御局面に必要な体力）	10h	0h	10h
		⑧	競技力の情報分析とその活用	1h	0h	1h
		計		20h	0h	20h
2	実技	①	攻撃局面に必要な個人的技能	2h	0h	2h
		②	攻撃局面に必要な集団的技能	1h	0h	1h
		③	防御局面に必要な個人的技能	2h	0h	2h
		④	防御局面に必要な集団的技能	1h	0h	1h
		⑤	攻撃・防御に必要な体力トレーニングの実際	1h	0h	1h
		⑥	現場における救急処置	1h	0h	1h
		⑦	テーピングの実際	1h	0h	1h
		⑧	スキルの評価とその実際	1h	0h	1h
		⑨	レフェリングの実際	1h	0h	1h
		計		11h	0h	11h
3	指導実習	①	攻撃・防御局面に必要な個人的技能の指導	4h	0h	4h
		②	攻撃・防御局面に必要な集団的技能の指導	4h	0h	4h
		③	指導計画作成の実習	1h	0h	1h
		計		9h	0h	9h
				40h	0h	40h

■公認ハンドボール上級指導員

養成目的 都道府県の地域スポーツクラブ（スポーツ少年団など）や小・中・高等学校の部活動の中心的指導者、そしてマスターズの監督・NTSトレーニングの指導の補佐にあたれる指導者を養成する。

役割 年齢・競技レベルに応じた指導にあたるとともに、地域スポーツクラブ等が実施する各種事業の立案・運営に参加する。また、ハンドボール指導員の育成指導にあたる。

受講条件 ハンドボール指導員有資格者で、受講年度の4月1日現在で満22歳以上の者。上記各レベルで中心的な役割を担っており、都道府県ハンドボール協会が認める者（免除条件については別途定める）。

カリキュラム 共通科目70h(共通Ⅰ＋Ⅱ）専門科目20h

受講料 共通科目　14,700円(共通Ⅰ免除者は8,400円）　専門科目　10,500円

登録料(4年間) 10,000円（初回登録時のみプラス3,000円）

更新のための義務研修 資格登録有効期限4年間のうちに、最低1回日本ハンドボール協会が定める研修会または日本体育協会（都道府県体育協会の実施する研修会を含む）が実施する（認める）研修を受けなければならない。

担当委員会 日本ハンドボール協会 指導委員会

区分		カリキュラム		時間数		
				集合	その他	計
1	種目の特性に応じた基礎理論	①	指導者の役割（理想の指導者像、求められる行動規準）	1h	0h	1h
		②	ハンドボールの科学的理解（バイオメカニクス、生理学）	2h	0h	2h
		③	ハンドボールの一貫指導	1h	0h	1h
		④	ハンドボールの構造的理解（攻撃・防御局面の理解、攻撃局面に必要な技術と戦術、防御局面に必要な技術と戦術、攻撃・防御局面に必要な体力）	6h	0h	6h
		⑤	競技力の情報分析とその活用	1h	0h	1h
		計		11h	0h	11h
2	実技	①	攻撃局面に必要な個人的技能	1h	0h	1h
		②	攻撃局面に必要な集団的技能	1h	0h	1h
		③	防御局面に必要な個人的技能	1h	0h	1h
		④	防御局面に必要な集団的技能	1h	0h	1h
		計		4h	0h	4h
3	指導実習	①	攻撃・防御局面に必要な個人的技能の指導	2h	0h	2h
		②	攻撃・防御局面に必要な集団的技能の指導	2h	0h	2h
		③	指導計画作成の実習	1h	0h	1h
		計		5h	0h	5h
				20h	0h	20h

■公認ハンドボールコーチ

養成目的 競技者育成プログラムに基づき、各都道府県内で各レベルの県を代表する選手の発掘・育成にあたれる指導者の養成。

役割 競技者育成プログラムに基づいた指導にあたるとともに、各レベルで県を代表する有望選手や県代表チームの監督・指導にあたる。また、都道府県内の強化事業の中心になり活動する。県レベルの各種講習会において指導的立場となる。

受講条件 受講年度の4月1日現在満20歳以上で、都道府県ハンドボール協会もしくは日本ハンドボール協会が推薦し、日本ハンドボール協会で認める者（免除条件については別途定める）。

カリキュラム 共通科目152.5h（共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ）専門科目60h

受講料 共通科目　18,900円　専門科目　10,500円

登録料(4年間) 10,000円（初回登録時のみプラス3,000円）

更新のための義務研修 資格登録有効期限4年間のうちに、最低1回日本ハンドボール協会が定める研修会または日本体育協会（都道府県体育協会の実施する研修会を含む）が実施する（認める）研修を受けなければならない。

担当委員会 日本ハンドボール協会 指導委員会

区分		カリキュラム		時間数		
				集合	その他	計
1	種目の特性に応じた基礎理論	①	ハンドボールの特性（競技の概要、国内外の動向）	1h	0h	1h
		②	指導者養成の考え方	1h	0h	1h
		③	指導者の役割（理想の指導者像、求められる行動規準）	1h	0h	1h
		④	ハンドボールの歴史（歴史的発展、国際的動向）	3h	0h	3h
		⑤	ハンドボールの科学的理解（バイオメカニクス、生理学）	2h	0h	2h
		⑥	ハンドボールの一貫指導	2h	0h	2h
		⑦	ハンドボールの構造的理解（攻撃・防御局面の理解、攻撃局面に必要な技術と戦術、防御局面に必要な技術と戦術、攻撃・防御局面に必要な体力）	12h	0h	12h
		⑧	競技力の情報分析とその活用	2h	0h	2h
		⑨	ドーピング防止	1h	0h	1h
		計		25h	0h	25h
2	実技	①	攻撃局面に必要な個人的技能	3h	0h	3h
		②	攻撃局面に必要な集団的技能	3h	0h	3h
		③	防御局面に必要な個人的技能	2h	0h	2h
		④	防御局面に必要な集団的技能	3h	0h	3h
		⑤	攻撃・防御に必要な体力トレーニングの実際	3h	0h	3h
		⑥	現場における救急処置	2h	0h	2h
		⑦	テーピングの実際	1h	0h	1h
		⑧	スキルの評価とその実際	2h	0h	2h
		⑨	レフェリングの実際	2h	0h	2h
		計		21h	0h	21h
3	指導実習	①	攻撃・防御局面に必要な個人的技能の指導	6h	0h	6h
		②	攻撃・防御局面に必要な集団的技能の指導	6h	0h	6h
		③	指導計画作成の実習	2h	0h	2h
		計		14h	0h	14h
				60h	0h	60h

■公認ハンドボール上級コーチ

養成目的 ナショナルレベルで活躍できる競技者の育成・強化にあたる指導者を養成する。

役割 日本を代表するトップレベルの選手の育成・強化にあたるとともに、国際的な視野を持ち、日本ハンドボール協会の強化スタッフとして強化活動の中心として活動する。

受講条件 受講年度の4月1日現在満22歳以上で、日本ハンドボール協会の強化等よりの推薦があり、日本ハンドボール協会で認める者（免除条件については別途定める）。

カリキュラム 共通科目192.5h（共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ＋Ⅳ）専門科目40h

受講料 共通科目46,200円（共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ免除者は27,300円） 専門科目 16,800円

登録料(4年間) 10,000円（初回登録時のみプラス3,000円）

更新のための義務研修 資格登録有効期限4年間のうちに、最低1回日本ハンドボール協会が定める研修会または日本体育協会（都道府県体育協会の実施する研修会を含む）が実施する（認める）研修を受けなければならない。

担当委員会 日本ハンドボール協会 指導委員会

区分		カリキュラム		時間数		
				集合	その他	計
1	種目の特性に応じた基礎理論	①	指導者の役割（理想の指導者像、求められる行動規準）	1h	0h	1h
		②	ハンドボールの歴史（歴史的発展、国際的動向）	2h	0h	2h
		③	ハンドボールの科学的理解（バイオメカニクス、生理学）	2h	0h	2h
		④	ハンドボールの一貫指導	2h	0h	2h
		⑤	ハンドボールの構造的理解（攻撃・防御局面の理解、攻撃局面に必要な技術と戦術、防御局面に必要な技術と戦術、攻撃・防御局面に必要な体力）	11h	0h	11h
		⑥	競技力の情報分析とその活用	2h	0h	2h
		⑦	ドーピング防止	1h	0h	1h
		⑧	海外遠征に関する諸問題	1h	0h	1h
		計		22h	0h	22h
2	実技	①	攻撃局面に必要な個人的技能	1h	0h	1h
		②	攻撃局面に必要な集団的技能	1h	0h	1h
		③	防御局面に必要な集団的技能	1h	0h	1h
		④	攻撃・防御に必要な体力トレーニングの実際	1h	0h	1h
		⑤	現場における救急処置	1h	0h	1h
		⑥	スキルの評価とその実際	1h	0h	1h
		⑦	レフェリングの実際	1h	0h	1h
		計		7h	0h	7h
3	指導実習	①	攻撃・防御局面に必要な個人的技能の指導	5h	0h	5h
		②	攻撃・防御局面に必要な集団的技能の指導	5h	0h	5h
		③	指導計画作成の実習	1h	0h	1h
		計		11h	0h	11h
				40h	0h	40h

《専門科目における講習・試験の免除》

1. 日本ハンドボール協会が主催した（定める）指導者講習・研修を受講した者。
   受講した内容程度に応じ、指導委員会が審査の上、免除科目を決定する。
   ※ブロック開催サマーキャンプ、コーチシンポジューム

2. 日本ハンドボール協会から、既存の指導者制度で資格を付与された者及び講習会等を受講した者。
   (1)日本ハンドボール協会J級指導員の資格を有する者は、指導員の専門科目の免除科目を設定する。
   (2)共通科目と同様に、認定校においてコーチの専門科目が免除となる。ただし、検定試験を卒業年次に受験する事。

3. その他
   (1) 国外での資格取得者
   (2)在外研修者
   上記の者については、日本体育協会と日本ハンドボール協会指導委員会が内容･程度を審査の上、免除項目を決定する。